

種の多様性調査

鳥類繁殖分布調査報告書

*The National Survey on the Natural Environment  
Report of the distributional survey of Japanese animals  
(Birds)*

平成16(2004)年3月

環境省自然環境局  
生物多様性センター

*Biodiversity Center of Japan*



## 序

「自然環境保全基礎調査」は、我が国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進する基礎資料を整備することを目的とし、環境庁（当時）が昭和 48（1973）年より自然環境保全法に基づき実施しているものである。また、近年の生物多様性の重要性に対する認識の高まりに合わせ、平成 6（1994）年度より「種の多様性調査」を新たな枠組みとして組み込み開始している。本報告書は、「第 6 回自然環境保全基礎調査」のうち「種の多様性調査」の一環として実施した「鳥類繁殖分布調査」について、調査結果をとりまとめたものである。

我が国に生息する動植物について、分布の現状とその時系列的变化を把握するためには、一つ一つのデータを丹念に収集し、精査し、蓄積することが必要である。しかし、全国にわたるこうした調査を実施するためには、種の分類、同定に関する確かな知識と能力を有する専門研究者の長期間にわたる協力が不可欠となる。幸い、鳥類については、基礎調査を開始した当初から、鳥類研究家や(財)日本野鳥の会会員をはじめとする全国の多数の調査員の理解と協力が得られ、我が国に生息するほとんどの種について、「第 2 回基礎調査」（1978 年度）においては「繁殖分布調査」を、「第 3 回基礎調査」（1984 年度）においては「越冬分布調査」を、「第 4 回基礎調査」（1990～1992 年度）においては、「集団繁殖地及び集団ねぐら調査」を実施してきた。

本調査は、第 2 回基礎調査（1978 年度）で実施した鳥類繁殖分布調査の調査手法とほぼ同一の手法で実施し、約 20 年前との変化を把握することを目的とした。

現地調査については、全国の（財）日本野鳥の会会員及び鳥類調査者の協力を得て実施し、情報の集計・とりまとめについては、(財)日本野鳥の会が請負業務として実施した。

最後に、本調査の企画立案からとりまとめに至るまでご指導頂いた鳥類分科会の委員各位並びに貴重な時間をさいて分布情報の提供にご協力頂いた調査員の皆様に心から感謝の意を表する次第である。

環境省自然環境局  
生物多様性センター



## 調査結果の要約

1. 第2回自然環境保全基礎調査（以下、第2回基礎調査）で作成された繁殖分布図と比較するために、1997年～2002年にかけて日本に生息するとされている鳥類の生息状況について調査を実施し、そのうち248種についての繁殖分布図を作成した。
2. 調査は現地調査及びアンケート調査を行った。現地調査は5万分の1地形図の各図郭につき必ず2コースを配置するように設定し、全国で2317コースを設定した。調査コースと調査方法は1974年～1978年に行った第2回基礎調査とほぼ同一であるが、アンケート調査では繁殖期以外の記録についても情報を集めた。
3. 現地調査とアンケート調査の双方とも、観察記録は三次メッシュごとに繁殖ランク及び個体数等を記録した。生息が確認された種の総数は406種、そのうち繁殖期の観察記録があり、繁殖ランクの判定ができたものは362種だった。繁殖確認種の内訳は、繁殖を確認した（Aランク）が206種、繁殖の確認はできなかったがその可能性のあるもの（Bランク）が21種、生息を確認したが繁殖については何とも言えないもの（Cランク）が16種、姿・声を確認したが繁殖の可能性はおそらくないもの（Dランク）が119種であった。
4. 第2回基礎調査と本調査との間で繁殖分布の変化が大きかった種を一定のメッシュ数の増減を基準にして抽出すると、ベニスズメ、ウズラ、アカモズ、チゴモズ、シマアオジなどの分布が縮小していることが分かった。一方、カワウ、アオサギ、ヤイロチョウ、ソウシチョウ、ガビチョウなどの分布は拡大している。
5. 分布が縮小している種のうち、アカモズ、チゴモズ、シマアオジが記録された調査コースについて、第2回基礎調査と本調査との間で環境の変化を調べたが、これらの種の分布縮小と環境変化との間に明確な関係は見られなかった。
6. 本調査では5目7科12種の外来種が報告された。第2回基礎調査では4目7科12種の外来種が報告されているが、両方の調査で確認された種は、コジュケイ、ドバト、ベニスズメ、ホンセイインコの4種だけであった。最も確認メッシュ数が多かったのはコジュケイだった。第2回基礎調査で確認されなかった種の中ではガビチョウとソウシチョウの確認メッシュ数が多かった。



# 目 次

．調査方法について	
1 ．調査の概要	3
2 ．調査方法	6
．調査結果の処理および繁殖分布図の作成	
1 ．事前作業	15
2 ．データベース化作業	15
3 ．繁殖分布図作成作業	17
．調査結果	
1 ．調査コースについて	21
2 ．繁殖分布図について	21
3 ．データ件数とアンケート報告地点の偏りについて	22
4 ．繁殖分布図の公表と制限	25
5 ．繁殖分布図の表示方法	25
6 ．繁殖分布図	27
．まとめ	
1 ．種別繁殖ランク一覧表について	282
2 ．種別繁殖ランク別メッシュ数比較一覧表について	285
3 ．繁殖評価に関する調査手法上の留意事項	299
4 ．分布の縮小が著しい種の生息環境比較	300
5 ．外来鳥類の進入状況	303
．資料編	
資料 1 ．自然環境保全基礎調査検討会鳥類分科会 検討委員名簿	311
資料 2 ．調査協力者一覧	313
資料 3 ．調査マニュアル	325

